

令和4年度 事業計画

学校法人 大阪成蹊学園

I. 大阪成蹊学園の全体方針

1. 大阪成蹊学園の概要

大阪成蹊学園は昭和 8（1933）年に創立された、89 年の歴史を持つ総合学園です。現在、傘下に大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学、大阪成蹊短期大学、大阪成蹊女子高等学校、大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園を擁し、在籍者数約 7,300 人、専任教職員数 560 人、卒業生総数が約 129,000 人の伝統と実績のある学園です。

（1）建学の精神

大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」は、司馬遷の『史記』に由来する故事成語で、「桃^{すもも}や李^{なし}は何も言わないが、その美しい花や実^みにひかれて人が集まってくるので木の下には自然と小道^{こみち}（蹊）ができる」という意味から、徳が高く尊敬される人のもとには多くの人が集まってくるという譬えです。このように徳があり人に慕われ信頼される「人間力」を備えた人を育てることを教育の基本目標としています。

（2）行動指針 「『忠恕』の精神」

「忠」は誠実、「恕」は思いやりを表わし、誠を尽くし人の立場になって考え行動するという意味です。建学の精神を実践するにあたっての行動指針としています。

（3）教育の基本理念

建学の精神「桃李不言下自成蹊」、行動指針「忠恕」に基づく、真に「人間力」のある人材を育成します。

（4）人間力の定義

建学の精神で掲げた教育の基本目標である、「人間力を備えた人材の育成」を実践するにあたり、本学園では以下の通り「人間力」を定義しています。

- ① 強い身体・柔軟な心を持ち、生命力豊かな人
- ② 「読む」「書く」「話す」などの基礎能力を十分保有している人
- ③ 人と円満に話しつつ、かつ迎合しない主体性・独自性を持っている人
- ④ 世界を鳥瞰し、広く大きく物事を捉えた適切な判断基準や問題解決ができる人
- ⑤ 強い好奇心や向上心を持ち、劣悪な環境をも克服する強い心を持つ人
- ⑥ 人に対する深い理解と忠恕の心を持ち、人との絆を大切にする人

2. 学園運営の基本方針

令和 5（2023）年度に迎える大阪成蹊学園創立 90 周年に向け、「学園創立 90 周年記念事業」として大阪成蹊大学では、令和 4（2022）年度に国際観光学部、令和 5（2023）年度に看護学部（仮称）及びデータサイエンス学部（仮称）、令和 6（2024）年度以降に社会学部（仮称）を新設し、文系・理系・芸術系が融合した 7 学部の総合大学へと発展してまいります。また阪急相川駅前に主に新学部が使用する新校舎を建設してまいります。本年度はこれら記念事業の準備を進めるとともに、

「大阪成蹊学園長期経営計画（2020-2029）」に基づき、経営・教学の更なる発展を図ります。事業計画の推進にあたっては、理事長・総長、各学校長のリーダーシップの下、建学の精神「桃李不言下自成蹊」を体現する「人間力」のある人材の育成を目的とする全学的な教育改革と、安定的な法人・学校運営を可能にする経営基盤・ガバナンスの強化に取り組みます。また、学校において想定される様々なリスクや非常時に備え万全な危機管理体制を構築し、社会から期待され、信頼される教育機関をめざすとともに、永続的に発展していくための学園運営をめざしてまいります。

II. 教育部門の基本方針

高等教育機関

1. 各大学・短期大学における「LCD 教育プログラム」の全学展開

各学部等において想定する進路で必要となる専門性だけではなく、人間力の基盤となる「リテラシー (Literacy)」「コンピテンシー (Competency)」「ディグニティ (Dignity)」の3要素を統合的に育む「大阪成蹊 LCD 教育プログラム」を展開します。令和4(2022)年度においても、大阪成蹊学園教学改革FSD会議及び、19の教学改革プロジェクトを中心として、以下に記載する(1)教育課程・教育内容の充実、(2)教育方法の工夫、(3)学修成果の可視化、(4)FD・SD研修の充実、(5)高大接続改革、(6)学生指導の充実・徹底、(7)教学IRの充実の7つの観点からプログラムを更に強化し、学生の「人間力」を高める「LCD 教育プログラム」として体系的な教育活動を展開します。

(1) 教育課程・教育内容の充実

① 初年次教育・キャリア教育を核とする全学教育の実現

SDGs ターゲットや社会課題を題材にアクティブラーニングの基礎を身につける初年次科目や、企業や自治体等の抱える課題に対して協働して課題を解決するPBL授業、様々なゲストスピーカーの招聘などにより、社会との接点を豊富に持つなかで人間力を高める全学教育を展開する。

② 全学的なAI・数理・データサイエンス教育の構築

Society5.0の到来への対応として、データサイエンスやAI、統計に関する科目を教養科目群に新たに配置し、全学的なデータサイエンス人材の育成をめざす。

③ 語学・グローバル教育

国際観光学部や教育学部中等教育専攻英語教育コースにおける英語教育の強化を図るとともに、留学や国際交流、各グローバル教育プログラムの充実を図る。

④ 専門演習(ゼミ)、卒業研究・卒業制作の充実

卒業研究・卒業制作に向けた学生の学びの質を一層高めるため、ガイドラインの配布や評価ルーブリック、ポートフォリオの導入、卒業研究発表会の開催などにより、組織的・体系的な指導体制の向上を図る。

⑤ 産・学・地の連携による教育研究の充実

学外連携学修ポリシーやガイドライン、事例集を活用し、産業界や自治体等、実社会との関わりのなかで専門性を深める学外連携授業の量的・質的拡大を図るとともに教育内容の充実に努める。

⑥ インターンシップ制度の充実

インターンシップを組織的に推進し、適切な企業等とのマッチング、事前・事後を含む実習指導

や実施後の報告会の開催などにより、より成長実感の持てるインターンシップ制度を構築する。

(2) 教育方法の工夫

⑦ 全学的なアクティブラーニングの推進

本学独自のアクティブラーニングハンドブックや好事例集、各授業におけるアクティブラーニング実施計画書の作成、FD 研修会や授業相談会の開催等により、組織的なアクティブラーニングの推進による学びの充実を図る。

⑧ シラバスの一層の充実

シラバス記載項目の充実と入力フォームの改訂、手引きの作成、研修の実施、シラバスチェック体制の確立等により、学生にとって一層分かりやすいシラバスを作成する。

⑨ 授業評価アンケートの活用

全ての授業で授業評価アンケートを実施し、各教員が授業実施報告書又は授業改善計画書を作成している。アンケート結果を踏まえた授業実践の検証・改善を図るプロセスを明確にして授業評価アンケートを適切に活用し優れた授業実践に努める。

⑩ 適切な成績評価の実施

成績評価ガイドラインの導入、プレゼンテーションやレポートの評価におけるモデルルーブリックの開発等により、成績評価の著しい偏りの解消をめざすとともに、GPA に関する規程の整備と活用方針の策定などにより、GPA 制度の実質化を図っている。また半期ごとに GPA の分布を様々な観点から検証し、データの活用も図っており、適切な成績評価の実施に努める。

(3) 学修成果の可視化

⑪ 学修成果の可視化

コア科目における到達度評価のあり方を明確にして、学生の成長・変化を可視化するとともに、教育改善の PDCA の実質化を図る。

⑫ 学修成果を発揮する各種大会・コンペティションの充実

プレゼンテーション大会「成蹊カップ」、未来展望レポートコンテスト、卒業論文発表会、卒業制作展、ファッションショー、作品展、英語プレゼンテーション/暗誦大会、読書コンクール、ビブリオバトル、ピアノコンペティションなど、様々な大会・コンペティションを開催し、学修成果を発揮する機会を充実する。

(4) FD・SD 研修の充実

⑬ 体系的な FD プログラムの展開

FD 委員会を中心として、全学的な教学改革の方向性を踏まえつつ、各プロジェクトとの連携のもと周知徹底や技能開発のための様々な FD プログラムを計画し、実施する。

⑭ 体系的な SD プログラムの展開

全学 FSD 研修会や各種会議・トップミーティングを通じた On the Job Development、各部門別の SD 等により、教職員の職能を高める。

⑮ 教員表彰制度の充実

優れた授業実践を行っている教員を表彰し、教育力の高い教員を顕彰するとともに、表彰授業に

における授業実践の工夫の共有を図っている。さらに、研究や学部運営など教育以外にも様々に表彰分野を設け、教員表彰制度の充実を図る。

(5) 高大接続改革

⑯ 高大接続改革の実現

受験者の資質・能力を多面的に評価することのできる新たな面接試験方法（面接票、質問表、評価ルーブリック等）を開発し、よりアドミッション・ポリシーに沿った入学者の選抜を行う。

(6) 学生指導の充実・徹底

⑰ パーソナル・ブランド・マネジメントプロジェクトの推進

テキスト「品格と人間力」やマナーDVDを作成し、教育課程内外での指導を通して個々の学生の品格と人間力を高めるパーソナル・ブランド・マネジメント・プロジェクトを展開する。

⑱ ラーニングコモンズの活性化

授業時間外での学習スペースや学習相談機能の充実、様々な学習講座の開講による正課外での学習環境の充実をめざすとともに学生の積極的な参加を促す。

(7) 教学 IR の充実

⑲ 教学 IR の充実

全学的な教学改革の成果・内部質保証の達成状況の検証を行うため、教学データの恒常的な収集・分析・報告に努める。

2. 学修や学生生活の満足度向上に向けた学生支援の充実

(1) アドバイザー・チューター教員・担当職員・保護者との連携による支援の充実、オフィスアワーの効果的活用

(2) コロナ対策を考慮した、クラブ、サークル、ボランティア、学会、コンペティションなど学びにつながる課外活動の実施

(3) 各種センター等の充実

① 学生支援センター

学生生活・人間関係の不安や、一人暮らしの相談など、広範囲に学生をサポート

② 留学生支援センター

各種申請手続き、授業の履修指導、日本語学習サポートなどの修学支援などを通して、留学生の学生生活をサポート

③ 教育研究支援センター

資格取得や対策講座などにおける活動をサポート

④ 教育保育実習支援センター

教育実習、保育実習、施設実習、介護等体験の学外実習の充実と学生の実習をサポート

- ⑤ スポーツ&カルチャーセンター
学園のクラブ活動を積極的にサポートするとともに、スポーツ振興や文化事業の実施による地域連携、高大連携に関する事業をサポート
- ⑥ スポーツセンター（びわこ成蹊スポーツ大学）
学生の課外活動の支援やトレーニングをサポートするとともに、産官学連携及び地域連携に関する事業をサポート
- ⑦ 英語教育センター
正課外における英語学習機会を提供。英語学習に特化した学科等の学生を対象とした英語関連の個別指導を実施
- ⑧ 国際交流センター
特色ある海外研修や交換留学など学生の海外での学びをサポート
- ⑨ 産官学連携センター
官公庁や企業と連携し、アクティブラーニングやPBL学修の環境を整備
- ⑩ 音楽教育センター
音楽教育の充実を図るための企画・運営や、学生のピアノ演奏技術の習得を指導
- ⑪ 教職キャリアセンター
教員採用試験対策のアドバイスができるセンタースタッフが、小中高教員・保育者をめざす学生をサポート
- ⑫ キャリアセンター（びわこ成蹊スポーツ大学）
キャリア形成支援及び就職、進路支援を行い、教職、公務員、企業就職それぞれにコアチームを結成し、専門スタッフが就職をサポート
- ⑬ 学習相談室（びわこ成蹊スポーツ大学）
就職に必要な基礎学力の向上や、夢に向かって自発的・意欲的に学習したい学生の学びをサポート
- ⑭ ラーニングコモンズセンター
授業課題や学修相談、就職に向けた基礎学力やSPIテスト対策に係る学習まで、幅広い学びをサポート
- ⑮ 学生医療相談（びわこ成蹊スポーツ大学）
アスリート特有のスポーツ障害への対応からリハビリ・予防法・栄養指導など、競技者としての生活をサポート
- ⑯ 学生相談（カウンセリング）室
カウンセラーによる、学生の心の悩みへのカウンセリングを実施
- ⑰ 障がい学生支援室
障がいのある学生が適切な支援を受け、円滑な学生生活をおくることができる体制づくりを推進
- ⑱ 保健センター
定期健康診断の実施、疾病の早期発見、健康相談など、学生の健康管理や健康増進のサポートや、関連部署と連携した新型コロナウイルス感染症対策の推進

3. 学生の就職支援及び進学指導の推進

(1) キャリア支援

- ① 学部、学科の特色に合わせた就職指導・支援の強化
- ② 教職協働による就職進路指導・支援体制の強化
- ③ 就職のための資格取得の促進
- ④ 就職希望者別の対策講座の充実
- ⑤ 教職キャリアセンター・キャリアセンターとの連携による教員採用試験対策の充実
- ⑥ キャリア意識醸成に向けた年次別ガイダンスの開催
- ⑦ 学内企業セミナーの充実
- ⑧ インターンシップの充実のための受入企業開拓

(2) 企業開拓・広報活動

- ① 企業との関係強化による就職先の量的拡大と質の向上
- ② 企業開拓強化による学生と企業とのマッチングの活性化
- ③ 卒業後の追跡調査等卒業生とのネットワークの形成
- ④ 学園内合同企業説明会の強化

4. 研究の推進

- (1) 研究紀要の充実
- (2) 学会等での研究発表、論文投稿の推進
- (3) 科学研究費補助金等の外部資金獲得の推進
- (4) 共同研究の推進
- (5) 新学部開設に伴う研究者増への支援体制の強化

5. 教職協働の推進

- (1) 幹部教職員が関わる経営会議等重要会議の推進
- (2) 優秀な若手教職員及び幹部教職員による、教学改革プロジェクトチームの組成と活動の強化
- (3) 本部長制による責任の明確化と体制の強化

6. 入試広報の充実

- (1) 学生のニーズに沿った教育内容の充実と広報の強化
- (2) 多面的・総合的な入学者選抜の実施
- (3) オープンキャンパス等入試説明及び入試相談の機会の充実

7. リスク管理の強化

- (1) 自然災害、事故、感染症等公衆衛生に関わる緊急事態、情報漏洩、ハラスメント、SNS によるトラブル等「25 の重要リスク項目」の制定に伴う、危機管理体制の強化並びに危機管理マニュアルの周知徹底
- (2) 重要リスク項目に関する監査の徹底によるトラブル発生リスクの防止、並びに教職員への学

大阪成蹊女子高等学校

大阪成蹊女子高等学校は女子教育に特化し、キャリア教育及び建学の精神を踏まえた人間力の育成を目指す教育を強固に推進しながら、個々の生徒に応じたきめ細かな教育支援により生徒の成長を育みます。これからの社会で活躍できる人材育成をめざし、以下の4点を令和4年度事業運営における基本方針とします。

- (1) 学校教育力の向上（建学の精神に基づく人間力教育の推進、教育の質向上に向けた改革の推進、グローバル教育の推進）
 - ① 本学の特色であるキャリア教育、全コースで実施の「キャリアデザイン」科目の他、コース行事・学校行事において人間力（社会人基礎力）育成を強化
 - ② 本学の特色であり強みである2学科7コースの教育内容の更なる充実
 - ③ GoogleClassroom やスタディサプリなどのICT活用による学習機会の充実
 - ④ 入学時にiPad購入を全員に依頼し、学力の定着に向けた多様な指導法の展開を強化
 - ⑤ 全教員の自己点検評価と年5回のFD研修により指導力強化を図り、生徒の学力を向上
 - ⑥ コロナ禍で可能なオンラインやVR等を活用し、海外提携校との交流などグローバルなキャリア教育の推進
 - ⑦ ALTを活用した少人数制英語教育に加え、1年次の全生徒対象の放課後「ベルリッツ英会話教室」、2年次の「スタディサプリ イングリッシュ」実施による使える英語力を向上
 - ⑧ キャリアパスポートの導入による学習意欲の向上
 - ⑨ 第一期生が卒業する「音楽コース」所属生徒の希望する進路実現をめざし、令和3（2021）年度に竣工の音楽棟を有効に活用し、更なる音楽教育を推進
 - ⑩ 令和3（2021）年度開設の「看護医療進学コース」では、学びの充実をめざした教科指導を強化
- (2) 生徒募集の推進
 - ① コロナ禍の影響を最小限に抑え、充実したオープンスクールで募集広報を更に強化
 - ② 併設大学・短期大学の新設学部・コースへの接続をアピールし、進路保障の観点で内部進学
の優位さを鮮明にした広報を展開
 - ③ 2学科7コースの幅広い学びと特色を明確化した広報を展開
- (3) 学園内連携の促進
 - ① 各コースのカリキュラムと連動させた1年次からの学園内連携授業の充実
 - ② 内部進学率及び高校の教育力を高め、募集広報戦略に繋がる学園内連携事業を推進
- (4) 生徒指導の強化
 - ① 多様化する生徒に対応する全教員の生徒指導体制を強化
 - ② 生徒のカウンセリング強化を図るためカウンセラー及び養護教員の複数配置を維持

- ③ 新型コロナウイルス感染症予防のための保健管理体制の強化と、心のケアも含めた生徒指導の徹底

大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園

こみち幼稚園は、楽しい「遊び」を通して、幼児の心情・意欲・態度を育みながら、「強く明るく考える子ども」を育成することを教育活動の目標とし、以下の6点を令和4（2022）年度事業運営における基本方針とする。

（1）保育内容の質の向上

① 心の教育・人権教育の充実

- ア．幼児が、豊かな情操や思いやり、生命を大切にできる心、善悪の判断などに繋がる力を育む保育実践の追及
- イ．自ら健康で安全な生活をつくり出す力の育成
- ウ．定期的な人権研修会の実施

② 道徳性の芽生えを育む

- ア．幼児が生活の中でルールやマナーなど道徳性や規範意識を醸成するための関わりや環境構成の工夫及び充実
- イ．あいさつや親切心、思いやりの気持ちを醸成する温かい雰囲気づくりの促進

③ 健康・安全教育と保健室機能の充実

- ア．基本的な生活習慣に関する指導法の研究を行い、幼児の健康管理や安全管理についての理解と意識を向上
- イ．養護教諭を中心とした保健衛生管理の充実
- ウ．教職員に対する安全に関する研修と避難訓練の実施
- エ．新型コロナウイルス感染防止のための対策の実施

④ 食育の推進

- ア．幼児の実情と配慮点の検討にもとづいた給食指導の実施
- イ．食の大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちの育成
- ウ．短期大学栄養学科等との連携推進

⑤ 自然環境と体験学習の充実

- ア．季節感のある環境を構築し、幼児の身近な動植物に対する興味や関心を積極的に促す保育の実践
- イ．幼児の気付きや発見を促す保育実践の検討、実施

⑥ 音楽・運動・造形表現遊びの充実

- ア．運動遊びを展開できる遊具、用具などを準備し、自然・音楽・絵画等、美しいもの、優れたもの、感動するものとの出会いを促進する
- イ．各専門講師と連携し、幼児理解を深め、個々に合った指導方法を実践

⑦ 大学、短期大学、高校との連携プログラムの推進

- ア．大学教育学部、短期大学幼児教育学科及び高等学校との連携の推進

- イ. 幼児や学生にとって望ましい経験となる教育実習内容の検討
- ウ. 大学教育学部、芸術学部、短期大学幼児教育学科、グローバルコミュニケーション学科の
教員との教育観の共有

(2) 幼稚園独自の教育の強化

- ① 特別支援教育の充実
 - ア. 家庭、地域、医療や福祉、保健等の関係機関との連携推進
 - イ. 特別支援教育に関する外部研修への積極的参加
 - ウ. 相談員訪問による子どもの状況把握と指導力の向上

(3) 健康・安全管理体制の強化

- ① 地域との連携体制の強化
地域の施設などと連携し、非常時の避難方法や連携方法を確立
- ② 災害発生時の安全対策の検討・実施
緊急時に園児を長時間にわたり園内で保護する場合の体制の見直しと備蓄の把握

(4) 教員の資質向上

- ① 研修の充実
大学教育学部、短期大学幼児教育学科教員との合同研修会「保育研究会」の実施

(5) 学園内外との連携の充実

- ① 動物と触れ合う写生会、大学祭への参加
- ② 大学教育学部教員、学生による科学遊びの体験
- ③ 短期大学グローバルコミュニケーション学科教員による課内英語活動の実施
- ④ 外部講師による課内音楽指導
- ⑤ 大学芸術学部教員、学生による絵画・造形指導
- ⑥ 短期大学、大学教育学部教員と学生による課外スポーツクラブ指導

(6) 園児募集の強化

- ① 教育内容及び保育内容の充実と情報発信による3歳児クラス、2歳児クラスの募集力強化
- ② ホームページの充実等広報活動の強化

Ⅲ. 経営計画

1. 令和4年度（令和5年度入試）学生・生徒・園児募集

各学校とも入学定員を次の通りとする。

（単位：人）

学校・幼稚園名		入学・募集定員	計
大阪成蹊大学	経営学部	260	945
	経営学科	140	
	スポーツマネジメント学科	120	
	芸術学部	220	
	造形芸術学科	220	
	教育学部	220	
	教育学科 初等教育専攻	150	
	中等教育専攻	70	
	国際観光学部	80	
	国際観光学科	80	
	看護学部（仮称）	80	
	看護学科（仮称）	80	
	データサイエンス学部（仮称）	80	
	データサイエンス学科（仮称）	80	
大学院 教育学研究科	5		
びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ学部	360	370
	スポーツ学科	360	
	大学院 スポーツ学研究科	10	
大阪成蹊短期大学	生活デザイン学科	40	540
	調理・製菓学科	100	
	栄養学科	70	
	幼児教育学科	180	
	観光学科	60	
	グローバルコミュニケーション学科	20	
	経営会計学科	70	
大阪成蹊女子高等学校			400
大阪成蹊短期大学附属こみち幼稚園			90
学園合計			2,345